

副島隆彦 先生の最新のトランプ大統領分析を知る！

⇒編集後記で（PDF 25ページから）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

新案件！

【利益率 36 倍】 初期費用 0 円でも 1000 万の投資より儲かる生き方とは？

⇒ <http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【音声】

めんどくさがって行動しないあなた自身を

『半自動的に行動させる方法』を話した音声

【音声プレゼント】 「めんどくさい」を克服する方法

⇒ http://fxgod.net/onsei/business/mendokusai_control.mp3

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDFレポート【無料FX道場32時限目までの内容をまとめました！】

⇒ http://fxgod.net/pdf/32jigen_matome.pdf

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

どうもゆうです！

こんばんは！

さて、今週ですがアメリカの中間選挙が終わりましたね～

それでまあ色々な分析が前後で出ていましたが
やはり注目は2016年にトランプ大統領誕生を
選挙前に書籍で「断言」しちゃった副島先生ですよね。

今日は副島先生の重たい掲示板に投稿された
文章から学びましょう！

編集後記で！

今日はこちらの案件の担当であり

私とも面識がある素晴らしい起業家でもありますが

原田さんより読者さんにメッセージです



=====

ICO・仮想通貨・投資よりも
3倍以上儲かる「新しいビジネスモデル」
を完全無料(0円)で手に入れませんか？



<http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

※11月8日までの期間限定公開です。お急ぎください。

※0円から360万まで稼げる秘密を無料で公開中！

こんにちは。

原田です。

今、日本の銀行預金に

預けると年利なんて0.2%とかですよ。

投資信託だって、
3%とかでドヤ顔で営業しに
来る人もいます。

でも、

アジアの金融大国の
シンガポールとかなら
10%とかは超える投資信託や保険もあつたりするほど。

日本がどれだけ
不景気かわかってしまいますね。。

じゃあ、
10%なら

1000万あれば年に100万儲かる

わけですが、
正直なところ

「1000万も自由に使えるお金がない」
「100万ならアルバイトでも稼げないか？」

なんていう話が
出て来るわけです。

そう。

いくら儲かると言っても、
悲しいことに投資ビジネスは

元本（自由に使えるアナタの貯金）

が 1000 万あっても
たった 100 万しか儲からないわけです。

なのに、
みんながみんな

20 年後には元が取り返せる不動産や保険とか、
30 年後には返済できる住宅ローンとか、

は平気でやっちゃうわけですよ。
仮に 20 年後 100 万返ってきてても・・・って感じですよ。

もちろん嬉しいには嬉しいですが、
できることなら

「早く稼ぎたい」はずですよ。

さらに、

- ・ リスクがかからない
- ・ 初心者・素人でもできる
- ・ 0円が360万円になる

そんなウソのような
稼ぎ方が完全無料で公開されています。



<http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

※11月8日までの期間限定公開です。お急ぎください。

※0円から360万まで稼げる秘密を無料で公開中！

=====

以上です！！

それで今回の案件ですが、

ずばり「プロデューサー」になりませんか？という

案件ですね。

ちなみに最近だと分かりやすいのがまさに

野田式 FX 道場でこれもある種

野田さんってある種

大変優れた一流トレーダーであり講師であり

アーティストがやってる野田式 FX 道場を

中森社長や私がある種

プロデュースする観点でやっていたわけですが

この案件は「そういうプロデュースを学びませんか？」

という案件です。

ちなみに無料案件というのは

良いものもあればヤバいものもあるという感じで

玉石混交(ぎよくせきこんこう)ではあるので

野田式と違って私個人が参加してるわけでもないの

読者さんでご判断いただければと思いますが

この案件は私とも何度もあって面識ある

原田翔太さんなんかやってる案件でして

私も以前彼に学んだことはあるので

なかなか注目の案件ではないだろうか、と思いました。

ちなみに

今の時代やはり強いのが

「ビジネス + 投資」でして

投資もビジネスではあるのですが、

例えば有名な世界一の投資家といわれるウォーレン・バフェット

なんかはバークシャーハサウェイを運営していて

ちゃんとビジネス、も行っているんですね。

また、日本のバフェットといわれる竹田和乎さんは

以前に亡くなってしまいましたが

彼なんかは株式投資家で大変有名で

非常に難しい日本株でもちゃんと200億円～300億円

位の時価総額を一人で持っていた凄い人ですが

彼なんかは同時に竹田製菓という会社の社長さんでも

ありました。

投資で稼いでる人は多いですが

それ以外にビジネスでもしっかり稼ぎを持つのは

大事だと私は思いますが、

そういう方なんかはこの案件でプロデューサーというのも

学んでみると面白いでしょう。

⇒ <http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

それで私なんかはビジネスにおいては柴野さんという

方に学んでおりまして、

その方に若い頃、数十万円のお金出して

色々教えてもらったものですが

彼に教えてもらったこと、

それは

「仕掛ける側になりなさい、仕掛けられる側では

いつまでも貧乏だ」

ということでした。

ちなみに原田翔平さんとはこの柴野さんの塾のつながりで

何度も何度もお会いした感じですね。

この人かなりしっかりした人です。

以前は私の尊敬する和佐君っていう障害を持っていながらも

1億円以上稼いだ起業家がいるんですけど

彼ともタッグ組んでいた人で

私と同じ早稲田で同大の人でもありまして

プロパガンダ、とかその辺に大変詳しい方ですね。

正直言うと FX 系だと野田式以上の無料案件はないだろう

くらいで私たちも仕掛けていた部分はあるんだけど

こちらはビジネス系でなかなか注目の案件で

もし読者さんがビジネスで稼ぐことに興味あれば、

学んでみると面白いと思います。

⇒ <http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

それで一応上に広告文はありますけど

ここで原田さんが書かれているメッセージが

やはり重要です。

<引用>

=====

【We are the 99%】

2011年9月17日から
アメリカ合衆国ニューヨーク市マンハッタン区の
ウォール街において発生した

アメリカ経済界、政界に対する一連の抗議運動
『ウォール街を占拠せよ』のスローガンになったのが、

We are the 99%

という言葉。この99%は、
1970年代から、アメリカ合衆国において

上位1%の富裕層がより豊かになっていくのに対して
残り99%の中間層・貧困層を表す数字。

そして、現在では
この1%の富裕層と99%の貧困層というパラダイムに

アメリカだけでなく日本も

変わっているということ。実際に、
日本でも大ヒットした
2015年の世界的ベストセラー

トマス・ピケティの
『21世紀の資本論』

で書かれているように、

r （資本収益率） $>$ g （経済成長率）

この式が何を表しているのか、
簡単に言うと、

資本家と労働者の経済格差が

~~~~~

どんどん広がっていく。

~~~~~

ことを示しているわけです。

つまり、

お金持ちはもっとお金持ちになり、

貧乏な人はもっと貧乏になり、
中間層の人は貧困層になる

ということ。

ここで、一番怖いのが、

中間層（日本人の多くはここ）

の人たちが貧困層になるということ。

決して富裕層ではなくとも、

衣食住には困らない人たち

が貧困層になってしまうのです。

日本はかつて「一億総中流」と言われるほど

中間層の人が多い国です。

つまり、この先

日本国民ほとんどが貧困層となり

貧富の差はより大きくなっていくのです。

詳細はこちら

⇒ <http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

【貧乏は遺伝する

という残酷な真実】

**これからトップ 1%の資本家たちは、
資本（お金）を投資して**

最先端技術

優秀な人の雇用

をすることで、

**また一段と自分たちの資本を
大きくしていきますが、一方で、**

**労働者たちは、技術革新による
AI・ロボットの発達で今以上に仕事を
探すこと・稼ぐことが難しくなっていきます。**

**お金持ちはよりお金持ちに
貧乏な人はより貧乏になる。**

この未来はそう遠くないわけです。

さらに、
この資本家と労働者という
社会構造を逆転させることは

厳しいですが現実は無理な話

です。なぜなら

富裕層であること＝生まれがいいから

だからです。

裕福な家に生まれることで、
次世代に引き継がれる相続は大きくなっていきます。

裕福でない家はそもそも
相続するものもありません。

つまり、

あなたが稼がなければこの先、次世代は
もっと辛い思い・貧しい思いをすることです。

しかし、

この貧富の差は

これからもっと大きくなること

が決まってしまっています。

貧乏が遺伝するというのは残酷ですが

悲しい現実なのです。

=====

以上です！

私なんかは最近これを良く感じておりまして

やはりどんどん貧富の格差が広がっている、と。

ちなみにですが無料 FX 道場企画も本来はですね、

昨日終了して 閉じてしまう流れではあったのだけど

まだ未確定なんだけど、入れなくてもあの内容で

勉強してる人がいるから

まだなんとか残そうかどうか、ということで

こればかりは野田さんと中森さんの調整にもなりますが

今してるところです。

というのはですね、今貧困でもなんとか抜け出そうと

あれで学んでくれている人はいらっしゃいますから。

それでぶっちゃけ言ってしまうと

今の日本って貧富の格差が明らかに進んでおりまして、

それは私の肌感覚だと消費税8%になってから

加速化してます。

これは新聞とかテレビは大本営だから言わないですけど・・・

明らかに進んでる気がする。

昔なかったこととして例えば何かの良質な商品を

私もからんでプロデュースして、

販売する時にですね、

以前は

「入りたいけど入れない」という人はあまりいなかったんです。

学びたい人はお金出せば、学べた。

けど最近はその辺が正直言ってしまうと違ってまして

入りたいけど財政的な部分でカツカツだから入れない

という人が明らかに増えてるわけですね。

これは今 IT の業界でも言われてることです。

そしてそれは以前に消費税 5%から 8%に上がったんだけど

明らかに・・・その後進んで出てきた兆候です。

それで来年には消費税 10%なわけでした

これは本当にヤバイことになるな・・・というのは

私を感じ取ってることです。

明確にこれから役人たちに意図されてると思いますが

貧富の格差は広がってくるのは間違いない、という

景況感を私ゆうは持っておりますね。

⇒ <http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

それでこの原田さんですがビジネス系の分野で

一流の方です。

私ゆうとも以前政治経済で色々情報交換をしたのを

覚えていますか

FXの分野では野田さんとかあとはダイスケさんとか

根崎君とかかなりレベル高い人が出現しておりますが

ビジネス分野だと原田翔太さんはかなり

本質語れる人なので

読者さんが投資で既に稼がれていて

ビジネスでも収益源ほしいようであれば

彼に学ぶといいかもしれません。

(彼の話す内容は高度です)

今の時代、「仕掛ける側の視点」はどの分野でも

重要ですから

ぜひ読者さんがビジネス分野も強くしたいようであれば

見てみてくださいね～

⇒ <http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

===== 編集後記 =====

さてさて、今週ですがようやく
アメリカの中間選挙が終わりましたね。

結果は、というとなじれなんとかって報道されてますが
やはりトランプのやりやすい形になってきた
という風にいえます。（これ後半で説明）

それでやはりトランプ大統領分析で日本で注目されているのが
副島隆彦先生でして、

この方は以前に2016年の大統領選挙で
ヒラリーが勝利確実と報道される中、
トランプ大統領誕生を書籍で断言して出版したことでも

有名ですが、インフォ業界の人なんかは
「税金官僚に痛めつけられた有名人たち」
で対談してるからそれらを読むといいでしょう。

デビ夫人なんかも出ていて国家官僚のとんでもない
税金収奪の手口が暴露されていますが

そういうのは当然テレビ新聞ではタブーな内容だけど
書籍ではちゃんとかかれていますので
大変生きた勉強になる。

それで、今回の副島言論は、というと
アメリカの中間選挙のことです。

毎回過激ではありますが、やはり
すごい勉強になるからそれでは見てみましょう！

副島隆彦学問道場の
重たい掲示板より引用

<http://www.snsi.jp/bbs/page/1/>

=====

米中間選挙の結果を見て。 トランプは、このまま突き進む。

副島隆彦です。 今日、2018年11月8日（木）です。

急いで自分の走り書きの文を載せます。

アメリカの中間選挙（ミッドターム・エレクトション
大統領選挙4年ごとの、中間だから）の結果は、

昨日の 午後1時（アメリカ現地では、7日の午後11時）には、
大方（おおかた）は、判明していた。

あとの方に載せる NHK の 記事の中の、
ABC の 記事で、現在、最新のもの（今日の午前8時ぐらい）で、

「 下院は、共和党が、201議席、民主党 が223議席で、民主党が8年ぶりに多数派を制した 」 そうだ。

トランプは、中間選挙で、半分勝って、半分負けた。

勝った半分は、自分を支持している上院議員たちを多く受からせた。

州知事たちも。上院では過半数を取った。

負けたのは、下院の議席 である。

トランプは、すばしっこく頭の回転が速い、
機転（きてん）が利く男だから、さっと、反省した。

自分のいけないところ、欠点、弱点は何か、と。

それで、選挙翌日の11月7日の記者会見では、
自分の 敗北と、弱点を認めて、
「民主党に 協力を呼びかけ、国民として、団結して、
政治をやってゆこう」と、 訴えた。

このトランプの 回心（かいしん）、反省の考えは、
compassionate conservative
コンパッションネット・コンサーヴァバテブ と言って、

「社会的な弱者や、貧しい者や、移民たちに、
憐（あわ）れみの情をもって、接する 保守主義の態度」というもので、

どうせ、自分たちは、金持ちで、権力者なのだから、
政治指導者として、そういう 虐げられた者たちに、
同情と共感の憐れみの気持ちを持たないと、いけないよ、
というものだ。

この コンパッションネット・コンサーヴァティブ
「思いやりのある保守」 の気持ちで、
国民みんなの大統領だ、ということで、

しおらくし、謙虚に選挙結果の 声明文を、読んだ。
ところが、このあとが、よくなかった。あーあ、である。

声明の読み上げのトランプ演説の、直後に、
記者たちからの質問で、、仕組まれたとおり、
CNNの噛付（かみつ）き犬の、狂犬の激しい、

キャンキャン質問に、すぐに、トランプは、我慢が出来なくて、
ぶち切れて、「お前は、もう、いい。ここに来るな」とやった。

これで、あーあ。また、ケンカ路線に戻っていました。

指導者にとって、何よりも大事なものは、我慢に、我慢で、

我慢こそは、上に立つ者の 寛容（かんよう）の精神だ、と、
トランプだって、分かっているけど、それが出来ない。 あーあだ。
一番、後ろに、その様子の 新聞記事を載せておく。

私、副島隆彦、が、選挙結果が出て、今、唯一、不愉快なのは、
これで、ヒラリー・クリントンを、米議会が、
議会（による刑事）裁判に掛けることが、遠のいたことだ。

トランプは、まだ、一国の政治の、正義を貫いて、
ヒラリーの大きな犯罪を追及して、有罪にする覚悟と決意である。
だが、なかなかそれが出来ない。

米民主党 という、本来は、貧しい者と、労働者、と
移民たち（有色人種）を守るための政党なのだが、

ここに、恐ろしい政治宗教団体が、強固に、潜り込んでいて、
それで、アメリカ政治は、おかしい事になっている。

今のアメリカの最大の、権力者は、誰なのか。どの勢力なのか。
正式の米大統領であるドナルド・トランプが、
最高権力を握っていないではないか。

トランプは、まるで反対派の、野党のようであり、

巨大な影の権力

(これが、the deep state ザ・ディープ・ステイト。裏に隠れた政府。今の世界の真の権力者たち)

に刃向かい、抗議している、反対派 (デシデント) だ。

今のアメリカの民衆の 標語は、このディープ・ステイト

「裏に隠れている政府」の他に、「ドレイン・ザ・スワンプ」がある。

この下に載せたカリカチュア (政治風刺の戯画) の通りである。

' Drain the Swamp. ' 「ドレイン・ザ・スワンプ」のことを、

朝日新聞でも、「ヘドロを掻 (か) き出せ」と、

アメリカ政治の解説記事で、書き出している。

だが、日本のほとんどの、政治関心人間の、リベラル派の、

自分は、ちょっと頭がいいのよ、と 思っている人たちでも、副島隆彦の本
を読まない者は理解できない。

「 (沼の) ヘドロ (スワンプ) を、掻き出せ (ドレイン) 」という

意味だと、日本では、副島隆彦の読者たち以外は、おそらく、知らない。

アメリカべったりの 日本の体制派のアメリカ研究学者たちには、何のこと
だか理解も出来ない。

swamp スワンプ とは、悪臭を発する沼のことだ。
腐った穢（きたな）い水が溜まっている、沼（スワンプ）を、

感慨（かんがい。イリゲイション）して、
排水溝（ドレイン drain）を作って、大きな川の方に流して、
そのきたない沼から汚水を抜け。

そうしたら、そのきたない沼の底に、政治で汚れた、害虫の
蛭（ひる）やら、トカゲやら、イモリやら、恐ろしい毒蛇やらが、
うじゃうじゃ、によろによろと這い回っている。

それらの アメリカの庶民、大衆を 食べ物にしてきた、
政治都市（首都）ワシントンに巣く食う、政治ゴロたちや、
ヒラリー派の、吸血虫の、 蛭（ひる）どもを、 日乾しにして、

太陽の日差しに当てて、日光消毒で、すべて殺してしまえ。皆殺しにしろ、
という、本当の、アメリカの庶民、民衆の 叫び声 だ。

アメリカの血のさけび だ。 分かるか、日本土人ども！

私、副島隆彦が、大声で、怒鳴りながら、教えてやる。

これが、本当のアメリカ政治だ。 分かれ！

この 「ドレイン・ザ・スワンプ ！」 と、

「ロック・ハー・アップ ！」 'Lock Her Up !

「ヒラリーを逮捕、投獄せよ ！」 こそは、

今もなお続く、真のアメリカ政治の、アメリカ民衆の、血の叫びだ。

どうして、この真に善良なアメリカ人たちの、アメリカ国民の
叫び声が、日本には、届かないのか。

日本には、伝わらないのか。

私、副島隆彦は、歯ぎしりしながら、いつも、このふたつの
文句（標語、スローガン）、たった1人で、呪詛（じゅそ）、
呪（のろ）いのコトバのように、低く吐きながら、生きている。

日本に、この私、副島隆彦だけが、報告し続けている、
アメリカ民衆の 真の叫び声を、

「ああ、いつもの陰謀論（いんぼうろん）ね 」で、
片つけられて、たまるか。

人に向かって、「ああ、あの人は、陰謀論者だから」 で、
切り捨てて、まるで、自分が、正常な世界に住む、
常識人の、良識のある人のように思い込む。

その愚鈍さ、こそを、恥じろ！

英語の、conspiracy theory コンスピラシー・セオリー を、
×「陰謀論」 などと、訳すな！

このコトバは、「権力者共同謀議論」、すなわち、

「権力者（たちによる）共同謀議（きょうどうぼうぎ）（は有る）理論」
と、正しく訳さなければいけない。

私は、ずっと、このように書き続けている。

トランプ大統領が、行く先々の、政治演説会の会場には、
毎回、それこそ、3万人、4万人のアメリカ大衆が集まっている。

入りきれない人が1万人ぐらいいて、外の巨大スクリーンで見ている。

そして、アメリカの大衆（本来は、民主党に入れる労働者たちも）は、

この「ドレイン・ザ・スワンプ ！」

「ワシントンに巣くう、あいつらを 日乾しにしろ ！」 と、

「ロック・ハー・アップ ！」 ヒラリーを 逮捕、投獄せよ！」を、

今も、怒号しているのだ。

民主党の集会なんか、どこも数百人が、集まっているだけだ。

みんな、自分の友人の、アメリカ人に、聴いてご覧なさい。

一体、何が起きているのか？

どうして、この簡単で、大きな、このひとつの事実さえ、
日本には、全く伝わらないのだ。誰たちが、邪魔しているのか？
一体、何が、起きているのか？

ヒラリーたち 今の世界の凶悪な政治集団である、
ムーニー Moonies 統一教会 を作ったのは、
ローマン・カソリック（ヴァチカン）の反共（はんきょう）主義 と、
CIA と イスラエルだ。

今のところ、私、副島隆彦に分かっているのは、これぐらいだ。

だから、そろそろ、この 「ディープ・ステイト！」と
「ドレイン・ザ・スワンプ ！」と、「ロック・ハー・アップ ！」
ヒラリーを逮捕、投獄せよ ！」

（ 副島隆彦著、光文社刊、2016年10月20日刊の書名も
このまま同じ） を、分かってください。

これだけが、大事なのだ。

このことを、分かってくれる人たちが、副島隆彦の同志だ。
本当の仲間だ。

日本全国に、この同志の連帯を、私は、作って行きたい。
あまりに政治的すぎる、と思うだろうが、分かるだけでいい。

大きな真実を、分かることだけが、優れた人間に出来ることだ。
それだけで、いいんだ。他に、何も、私たちは、出来はしない。

今のところ。

「一体、いまの世界で、誰（たち）が、最高権力者なのか？」
この 謎を解くことが、現在の 政治研究で、一番、大事なことだ。
私、副島隆彦は、このことにしか、興味、関心 は無い。

一体、今のアメリカで、真に権力を握っている者たちは、誰なのか？
私は、これを追及、追究している。

日本の学者、有識者、専門家、国際問題のジャーナリスト、
アメリカ研究学者たちも、すべて、この大きな、影に隠れた
権力者たちの、手先として、動かされている人々だ。

私は、自分を、彼らを、厳しく区別している。

朝日新聞の記者たちでさえ、グローバリズム（地球支配主義）、
グローバリスト（地球支配主義者。ちきゅうしはいしゅぎしゃ）の
ことが、政治思想の研究として、分かっていない。

共同通信（電通）や、AFP 時事通信 などの、昔から、
ロックフェラー財閥系グローバリストの 手先、子分 を
やってきた連中とは、毛並みは、違った。

それでも、'世界皇帝'デイヴィッド・ロックフェラーが、
昨年、102歳で、死んで、

「ヘンリー。あとはよろしく頼む」と、言い遺（のこ）して、
それで、ヘンリー・キッシンジャー（今95歳）が、
プーチンと、習近平も含めて、トランプをも、抜擢して、育てて、

今の世界政治体制 が、有るのに。

それなのに、ロックフェラーとキッシンジャーが、抜擢した、
トランプ（だから、彼が、大統領になった。私、副島隆彦は、そのように、
はっきりと予言して書いて、当てた。2016年の5月に） 、

正式の米大統領なのに、彼に、実質の権力が無い。

一昨日、キッシンジャー（95歳）が、もう、今にも死にそうな、
ヨボヨボ声で、「世界は、それでも、なんとか、うまくいっている」
としゃべっているのが、公表された。

トランプに、正式の、そして実質の権力があれば、
彼は、大（だい）悪人となって、現実の世界を、残酷に、動かす '

悪の皇帝 'になって、私たち日本人からも、
「ヘンな人なんじゃないの」を乗り越えて、
激しく憎まれているはずなのだ。

日本をイジめる、悪いアメリカの大統領として。
ところが、そうはなっていない。

トランプに、記者団会見（プレス・コウ）の時に、
けしかけ犬となって、トランプに噛み付いてゆく、
CNN や NBC やワシントンポスト紙、ニューヨークタイムズ紙 の、
ホワイトハウス詰め の記者たちも、 おかしな宗教団体の、
メンバーなのだろう。

これが、今の、副島隆彦の考えだ。いつもと変わらない。

トランプ共和党は、上院では、53 議席 ぐらいを取り、
民主党は46 議席だろう（50州かける2人で、定数100人）になる。
上院を押えれば、外交と 高官人事は、行える。

下院は、共和党204ぐらいで、民主党226ぐらいになる
（定数435のうち、あとの5人は、無所属とか、ずっとはつきりしない
まま、となる。そういう国なのだ）。

下院で、共和党が負けたので、トランプ政権は、
政策の実行が困難になる。

私、副島隆彦が、唯一、不愉快なのは、
下院で民主党が、勝ったことで、

ヒラリー・クリントンを 下院議会在権限を持って、
下院で、逮捕して、議会の裁判に掛ける、
という道が遠のいたことだ。

ヒラリーは、あれほど、悪いことを、たくさんした。
リビアのカダフィを殺し、 リビア国 の
400億ドル（4兆円）を奪い、

イスラエルのハイファ港と、サウジ、ヨルダンの港からも、
米特殊軍が、夜中に動いて、リビア国の 武器とかを、
シリア、イラクに、夜陰に紛れて運んだ。

すべては、ヒラリー国務長官（当時）の命令だ。

彼女が、無防備に、横着に、（自分が、オバマよりも権力者だ、
と威張り腐って）、自宅のパソコンから（大笑い）、

指令、命令を出していた。

それらの、無防備なメール、66,000通が、
エドワード・スノーデンのような先端、軍事ハッカーたちによって、
ハッキングされ、

かつ、ロシアや、
中国のサイバー部隊（宇宙軍＝核ミサイル部隊の、その上の、
サイバー宇宙軍）に、傍受というのか、ハッキングされていた。

そのうちに、400通は、本当に危険な内容で、ヒラリーが。
カダフィを殺しなさい、と命令したり、
リビア国から奪い取った資金で、

6万人の IS「イスラム国」や、アルヌスラ戦線などの、
凶悪な、反シリア政府軍を、
砂漠の中のアメリカ軍の秘密基地で、訓練して、作りなさい、とか、

これらの最高度に、恐ろしい、犯罪性のおカネの隠し先などの、
ヒラリー自身による メールでの、指図、命令などだ。

トランプたちは、この 凶悪な、アメリカ政府自身の
一部の暴走による、ヒラリーたちの犯罪を 問題にしている。

それが、「ヒラリーの国家機密メール漏洩（ろうえい）問題」だ。

2009, 10, 11, 12、13年に、
ヒラリーたちが、IS という凶暴な、

イスラム原理主義のテロリスト集団 を作ったのだ。

このIS の 幹部たち (バグダディたち。もとイラク兵) を、
サウジと、ヨルダンの、米空軍の秘密で、訓練して、育てて、

2014年6月12日に、突如、モスル(北イラク) と、
ラッカ(シリア中央部) に、出現させた。

それで、中東に、激しい、新しい戦争を引き起こし、
2000万人の アラブ人たちを、新しい難民にして、苦しめた。

本当にかわいそうなことをした。

すべて、ヒラリーと、彼女を一番上に、戴(いただ)く

世界的な、特殊な宗教団体

(統一教会。Moonies ムーニー。反共=はんきょう=思想を、強固な、
強固な、燃えるような信念とする。日本の安倍晋三たち も同じ。

韓国と北朝鮮の指導部も これと同じだ。

北朝鮮は、ローマ法王を招くらしい。そうだろうなあ)

が、 アメリカの司法省=FBI 、 国務省=CIA にも、
数百人ずつの幹部職員が、そのメンバーだ、 たちまでも、巻き込んで、ア
メリカ政治を、形作っている。

ヒラリーを逮捕して、今からでも、裁判に掛けよ。

それを、心の底から望んでいる、
アメリカの、田舎の、素朴な、おじさん、おばさんたちの、
必死の気持ちを、私、副島隆彦は、理解できる。

だから、私は、本当のアメリカ民衆の、
草の根（グラス・ルーツ）の、保守的な大衆を、支持する。
彼らと共感できる。

それでも、米共和党の中にも、トランプと敵対する、
この 特殊な政治宗教の連中がいる。

軍産複合体（ぐんさんふくごうたい。
ミリタリー・インダストリアル・コンプレックス）というコトバを、
使ってもいいのだが、

こんなものでは、収まりが付かない。

軍需（国防）産業も、反共軍人たちも、米メディアも、
金融業界も、全部、この集団だ。

私、副島隆彦は、もう、20年前から、ずっと、
このことを書いてきたのだ。

たくさんの自著に書いて残してある。
だから、他の、新参者たちが、ちょっと気の利いたことを
言い出しても、鼻で嗤（わら）う。

私は、米民主党の中に、強固に巣喰（すくっ）ている、
この恐怖の、宗教団体に対して、激しい敵意を持つ。

だから、アメリカ政治を、単純に、
「赤（民主党）勝て、白（共和党）勝て」の、
単純な 大国の、一国の、大きな政治ドラマと見ていない。

トランプは、貿易戦争（トレード・ウォー）その他で、
徹底的に、外国いじめをして、外国から、資金をぶったくことで、
自国民（アメリカ国民）を食わせなければ済まないのを、

日本も、その迷惑を受けるので、 トランプを嫌い、
「イヤな奴だなあ」と、トランプを訝（いぶか）しく、
疎（うと）ましく思う、日本人がたくさんいることを、
よく分かっている。

「トランプさんは、大丈夫なの。ヘンな人なんじゃないの」
というコトバは、流石に日本でも言われなくなって、

現職（インカンベント）の大統領、権力者、として、
彼を、どのように、弱体化させて、彼の氣勢を削（そ）ぐか、
という観点から、ものを言うようになった。

私は、トランプは、外国人（と移民）が嫌（きら）いな、
アメリカ白人だから、日本人という有色人種である、
私は、彼のことを、冷ややかに見ている。

私たち日本人は、白人ではないのだ。欧米白人とは違うのだ。
だから、日本人は、欧米白人たちが、目下、深刻に抱えている、
出稼ぎ労働者＝移民（マイグランド）、
戦乱、戦争からの難民（レフュジー）、

高級なら政治亡命者（アサイラム）、 の 殺到 にたいして、
困り果てている、現実を、
私たち、日本人は、複雑な目で、見ている。

日本人は、東アジアの、モンゴロイド（モンゴル人系）の、
有色人種（カラード）である。

それなのに、自分たち自身では、
名誉白人（めいよはくじん。オノラブル・ホワイト）のつもりで、
肌の浅黒い 東南アジアの人たちを見つめている。

欧米に行けば、日本人は、確実に、ただのアジア人だ。
そのように扱われる。

アラブ人（イスラム教徒）と、アフリカ黒人と、
中南米人（ヒスパニック。ラティノス。チカノ）そして、
アジア人は、もう、これ以上、北アメリカと

ヨーロッパには、入ってこないでくれ。

もう、今以上に、あなたたちの面倒を見る余裕は、私たち白人には、
ないのよ。という欧米白人たちの、本音の、

「もう、我が国に 入って来ないでくれ」という、考えが、
公然と、各国で出てきている。

トランプの 下院選挙での敗北は、 後半で票が開き始めた、
ニューヨーク州 と、 大州のカリフォルニア州の 票だ。

ここは、反（はん）トランプの牙城であり、リベラル派が、
たくさんいる。

だが、真実は、ヒスパニックがたくさんいるところだ。

ここの下院議員たちは、白人との混血、
合いの子（ミックスド・ブラッド）が多い。

だから、トランプが、白人優越（ゆうえつ）主義
（ホワイト・シュープレーマシー・イズム White supremacy ism ）と、
すれすれの、

本音の、正直な、白人の気持ちを、吐露して、あちこちで、
言ってしまったので、それで、 共和党の候補が、負けてしまった、という
ことがある。どうしても、この問題が有る。

トランプは、本音を、ボロボロと言ってしまふ、
正直者の指導者という性質を、どうしても、生来、持っている。

実業家（ビジネスマン）の時は、取引の相手も、悪賢い、
ズルの経営者たちだから、トランプも、ドギタナイ（ど穢い）
経営者の顔をして、たくさんの、ビジネスで、

多く人を騙して、相手から、金融資産、不動産を、奪い取っただろう。

だが、一国の大統領となった、この男は、このワルの極みの、
本音は絶対に言ってはいけない経営者の姿を、失ってしまった。

幼児のような無邪気さで、「国民の代表」をやっている。

そこが、トランプの、敗因だ。

これからも、この男の無邪気な、幼児性丸出しの、
正直政治は、多くの失敗原因を作るだろう。

だが、アメリカン・デモクラシーの、そもそもの、本来の良さは、
この

「正直者が、自分たちの大（だい）指導者、リーダー = 大統領だ。

だから、私は、この男に従い、この男を信じて、命令を聞き、
一緒に戦う 」というものだ。

その意味では、トランプは、今のアメリカ白人たちにとって、
待ち焦がれた指導者だ。

1980年代のレーガン大統領の再来だ、と穏やかな、素朴な、
正直者の、立派な、アメリカ人の男、女たちから、好かれている。

だが、正直者で、政治は出来ない。

ヒラリー派に体现される、ムーニー、統一教会の、恐ろしい、
悪の政治宗教の凶悪組織との戦いでは、
どうして、トランプは、弱小の、正義の、気の弱い、

真面目な人たちとなってしまう。

この、奇妙さが、アメリカ政治の、今の、姿だ。
私、副島隆彦のこの書き方を、分かる人たちから、
上だけで、私は、構わない。

私たちは、この衰れな日本から、世界を見つめる。
私たちは、立派な指導者を持ってない。

若者たちも、老人も、

「うん。この人なら、私たちの国、民族の指導者として、尊敬する。
いろいろ、キタナイことや、裏のこともあるだろうが、
それでも、この人を、私たちは、指導者として、

支持し、権力（権限）を、任せる」
という 優れた人物を、指導者に持てない。

このことが、日本国の最大の弱点だ。

国民は、各階層（かくかいそう）で、しっかりしていて、
若者たちも、ふにやふにやしている者も、世界共通でいるが、
皆、自分の人生を切り開くことで、真剣だし、苦労している。

老人たちも、人生の達人であって、経験を積んでいるから、
「自民党 公明党でないと、老人に福祉をくれない」と、
よく分かっていて、それなりの悪賢さがあって、

だから、老人なのだが。

みな、しっかりしている。

唯一、ダメなのが、ろくでもない者が、
私たちの指導者になっている、という一点だ。

こればかりは、どうにもならない。安倍晋三、さっさとやめろ。消えてい
なくなれ。

世の中は、このまま、ズルズルと進んでゆく。

時間が経（た）ってゆく。

そして、アメリカ政治も、このまま、トランプ執行部、
行政府（ アドミニストレイション。エグゼクティブ・セクション。ガ
ヴァーンメント）として、続いてゆく。

トランプを大統領弾劾（だんがい。インピーチメント impeachment）
に掛けて、議会に引きずり出して、恥を搔かせて、
辞任、失職させてやる、と、

民主党内 の ムーニー、統一教会の 下院議員たちが、
今から、動き出す。

これと、特別検察官（スペシャル・カンシシル、
スペシャル・プロセキューター）の
ボブ・ムラー（ドイツ系の名でミュラー）が、

トランプを、またしても、執拗に、
ロシア疑惑（ラッシアン・コルージョン）で、何の証拠もないのに、
全く、何の違法行為も、トランプ選挙チームは、していないのに、

「駐米ロシア大使に、トランプ陣営の幹部たちが、会って話した」
というだけのことを、まだ、蒸し返し続けて、

トランプに、狂犬病の犬のように、噛み付いく。

何と言う、連中だろう。

あとは、トランプの、20年前からの泥臭い実業家、
大手不動産としての金の動かし方や、税金の払い方などを、

穿（ほじく）り返すつもりだ。

もう、何も出ないと、なったら、
「女たらし問題（ウーマナイザー）」

トランプが、調子に乗って、20年前の若い頃、
テレビ有名人として、ケバケバしい女たちの体を触ったことが
何回かあって、

“ I grabbed her by the pussy ”

「アイ・グラブド・ハー・バイ・ザ・プッシー」

「オレは、あの女のおそこをガバツとつかんで、触ったぜ」と、

テレビ司会者の男に録音された音声を、
またしても、出してくるだろう。

トランプは、下品だ、と言って、支持しない女たちが、
いるらしい。

本当に、大量に、いるようだ。

それが、アメリカ民主党を、支えている、
リベラル派の高学歴の女たちらしい。

本当に、そういう、気取って、澄（す）ました、高慢ちきの女たちが、
300万人ぐらい、アメリカにいるのだろう。

私は、そういう 女たちが、日本にも、
わずかだが居ることを知っている。

こういう女たちは、乱暴で、粗暴で、だらしなくて、不潔で、
粗野な男たちを嫌う。

そうではなくて、男たちを、優しい母親の気持ちで、
理解してあげて、男を立てることを知っている、賢い、つつましやかな女た
ちもいる。

保守派（つまり、共和党支持） の女も、2種類いる。
金持ちの男と結婚して、いい暮らしをして、抜け目なく、
自分の利益を追い求める女と。

そうではなくて、貧しいが堅実に、生きて、旦那、夫を
よく支えて、あるいは、上手に操縦して、それで、
何とか、小さな商売で、それなりの資産を持っている、
真に賢い女たちだ。

私は、女として、すばらしいのは、やはり後者だと思う。

この真に堅実で、賢い女たちは、トランプを支持している。
若くても、だ。「トランプさんは、ウソをつかない。いい人だ。
女性問題がいろいろあっても、国民のための政治を
しっかりやってくれればいい。
それに対して、ヒラリーは、ものすごく悪い女だ」と、

真実を見抜いている。

この女性たちが、アメリカ中の田舎に住んでいて、
トランプを支えている。

アメリカの田舎の、じいさん、ばあさんたちは、それぞれの
地方の局の ラジオ番組を聴いている。

全米のそれぞれの局に、人気者の
パーソナリティ（番組司会者）がいる。

それらの番組で、ラッシュ・リンボウという
有名なラジオ司会者が、今も頑張っているが、

彼ら人気者のパーソナリティたちは、トランプが、書き込んだ、
その日のツイッター
を番組で読み上げる。

そして、それを、聴いている人たちに向けて、
分かり易（やす）く、解説してあげる。

「トランプ大統領が、ここで、こう書いてるのは、
こうこう、という意味で、誰と誰を、叩いているんだ。

誰が、ワシントン政治で、悪い奴で、
フェイク・ニュース・メディアというのは、

こういう ウソの報道をしている」と、

アメリカ人の、本当の田舎の、地方の 白人の
堅実な人たちに、話している。

これが、「アメリカン・マガジン」誌や、
「リーダーズ・ダイジェスト」誌が、

1950年代に、やっていたことと並行して、今も行われている。

当時は、ソビエト・ロシアが、どんなに悪い国かを、
ラジオ番組の司会者たちが、

アメリカの草の根（グラス・ルーツ）の民衆、大衆に訴えかけていた。
その伝統だ。

田舎の、このアメリカ大衆が、トランプを支えているのだ。

そして、今は、全米の、 爺さん、婆さんたちが、
「 deep state ディープ・ステイト
後ろの隠れている、影の政府 の 悪い奴ら が、アメリカを支配していて、
トランプが、必死で、そいつらと、闘っているのだ」 と、

お互いに、ヒソヒソと話し合っている。

そして、トランプを熱烈に支持している。

これが、今の真のアメリカだ。

私、副島隆彦が、このことを書かなければ、
他には、誰も、日本では、この真実を書く人がいない。

当たり前の大きな現実を、誰かが、書いて、
日本国民に知らせなければいけないのだ。

だが、私、以外は、こういう書き方をして、
アメリカの現状 を報告する者が居ない。

そして、この白人の じいさん、ばあさん、たちは、移民が嫌いだ。

もう、これ以上、南米から、アメリカに入ってくないでくれ、
面倒は見きれないよ、と、正直に、思っている。

こういう正直な、レポートが、日本国内に、
大量に行われなければならないのだ。

私、副島隆彦は、ひとりで、歯がみしながら、いつも、じっと耐えている。

いくら、書いても、書いても、日本人は、
大きな真実が分からない。

米民主党の中に、どれぐらい恐ろしい宗教集団が、
潜り込んでいることか。

このヒラリー派の、統一教会＝ムーニーの 勢力が、
どれほど、アメリカ政治をおかしくしているか。

世界を、大きな戦争に引き釣り込もうとしているか、を、
みんな、分かるべきなのだ。

アメリカ民主党でも、バーニー・サンダース上院議員（再選された）を
支持する、真面目で、清廉な人々がいる。

サンダースは、「貧しい若者たちの、大学の学費が高すぎる。
何とかしなければいけない。労働者の最低賃金をもっと、
出来る限り、引き上げなければいけない。

アマゾン、従業員をあんまりこき使うな」という、
まっとうなことを言う。

バーニー・サンダース議員は、
2020年の大統領選挙の民主党候補に、再び、名前が挙がっている。

だが、彼の、貧しい者たち、労働者たち寄りの、社会主義政策は、
民主党の中に、潜り込んでいる、
ヒラリー派の凶悪な者たちによって、邪魔される。

デボラ・ワッサーマンというフロリダ州選出の下院議員の女で、
ヒラリー派の大幹部の、

恐ろしい女（人殺しでも何でもする。 民主党全国委員長 DNC 議長から、
引き釣り降ろされた）たちが、

米民主党内には、ひしめき合っている。

それが、「移民を大事にせよ。もっと、もっと、
どんどんアメリカに入れよ。アメリカ憲法が定める人権を守れ」と、
綺麗事（きれいごと）を、唱える。

今や、リベラル派、人権重視 のアメリカの知識人層、というのは、
自分たちの脳が、完全に、それらの思想、知識、勉強で、
出来上がっていて、

それに洗脳（せんのう。ブレイン・ウォッシュ。マインド・コントロール）
された者たちだ。

アメリカ人は、自分たちが、学校で教えられたことが、
そのまま、通用すべきだと考える、

愚か者の、勉強秀才と、
「自分が、正義に従って行動する、良い人間だ」と、
思い込むことで、おかしくなっている。

「世の中は、自分の思うようにはゆかないんだ」、
「人生は苦勞が多いものなのだ」と分かって、

それで、柔らかく、柔軟に考えて、生きるべきだ。

と、日本人は、たいていの人がいい歳になると分かる。
それが、アメリカ人には、ないようだ。

帝国（ていこく。エムパイア）に生まれ育っているから、
「理想通りに社会はなるべきだ。自分たちの考えが、正しい」
と傲慢（ごうまん）なのだろう。

アメリカ民主党が、いけないのは、自分は責任を取らないで、
自分では、泥を被（かぶ）って、現実のどうにも出来ない、
苦しい問題の中で、

「自分が悪者になっても」、その問題に取り組む、
ということをしなない。

世の中にたくさんある、穢（きたな）い仕事は、
共和党に任せて、自分たちは、

「いつも、いい人。いつも、正しい側にいる人。
いつも、虐（しいた）げられている、かわいそうな人たちの味方」という
生き方をする人たちだ。

だから、これが、外国の問題になったときに、見えなくなる。

共和党の、金持ち、経営者連中の得になるように動く
政治家たちが、外国とのことで、いいようにやってくれ、
となって、自分たちは、外国との厳しい問題に、
関わろうとしない。

それで、キレイなことばかりいう。
ニューヨークタイムズ紙が、書いているような、
キレイごとに賛同する。

アメリカに入ってくる、かわいそうな外国人を助けよう、と、
口では言うが、自分では何もしない。

何もしないくせに、「自分はいつも正しい人だ」である。

これが、米民主党を支持する人たちが、
偽善者（ぎぜんしゃ。ヒポクリット）で、
よくない人たちなのだ。

この隙間（すきま）を、うまく突いて、
ムーニー、統一教会が、中に潜り込んでくる。

彼らは、グローバリズム（地球支配主義）に、反対して、
「反（はん）グローバリズムが、正しい」と、まで言い出す。

自分たち自身が、一番、悪質な、グローバリズムに加担し、
洗脳されている、奇っ怪な宗教にどっぷり浸（つか）かった
人間たちのくせに、そうは、思わない。

目鼻ぱっちり の 自分はいいい人、なのだ。

人間は、自分は正しい、と思い込む、生き物だ。

「お前がな」、「お前こそが、そうだろ。副島」と、
私に言う人たちとの、論戦を、私は、いつも覚悟している。

この私が選び取っている、複雑な理論を持っている、
このむずかしさ故に、私は、自分が孤立してる、厳しい道だ、
と分かっている。

だが、私は、この道を突き進む。少数の、真に頭のいい、
優れた人たちを味方に付けることを、
自分に出来る最大の努力だと、分かっている。

副島隆彦記

<http://www.snsi.jp/bbs/page/1/>

より

=====

以上です！！

いつもながらに素晴らしい副島節でした。

それでこの副島先生が書かれている

「

そして、今は、全米の、 爺さん、婆さんたちが、

「 deep state ディープ・ステイト

後ろの隠れている、影の政府 の 悪い奴ら が、アメリカを支配していて、

トランプが、必死で、そいつらと、闘っているのだ」 と、

お互いに、ヒソヒソと話し合っている。」

ですがこれは英語話す友人がいる人たちはみな

肌感覚で分かる話なんですね。

というのは私にもオーストラリア人とかアメリカ人とか
ノルウェー人とかまあ英語を相当喋るといふかネイティブの人たち
っているけど

実は毎回話しになると副島先生が書いてるような内容の
話になるわけです。

「誰が実際は支配してるのか」というところで
deep stateの話とかそういうのは出てくるわけですね。

最近だと QANON キューアノンなんかも注目されてますよね。

ちなみに私なんかは英語と韓国語と日本語話すので
色々な国の人と上記の類の話しますが

恐ろしいことに日本人の人たちって上のような
政治の複雑性って全然知らない状態にさせられている
わけです。

常識的に例えば英語圏の人たちは
政治影響力としてロンドンシティとか
あとはバチカンなりワシントン官僚なり NSA なり CIA
のある種の同盟関係が背後にあるって気づいてるのですが

そしてそれはなぜきづくのか？ というと
色々政治現象をみんな議論して分析して検証していく過程が

ありますからそこで気づいていくわけですね。

ただ日本人はこの類の話って上に副島先生が書かれていますが
陰謀論？だとかなんとか言ってるわけですね。

この無知状態というのは非常に計画的に作られたものであるでしょう。

ちなみに陰謀陰謀言ってる人は知能が低い人が多いというのは
なんとなくみんな気づいてるのですが

実は隠されてるだけで情報って普通に
書籍とかの業界では転がってるんです。

例えば福田康夫元首相いますよね。
あの方のお父さんが立派な政治家であった
田中角栄と死闘を演じた福田赳夫でした。

この人の回顧録なんかにもろに書いてることなんだけど
福田赳夫が25歳くらいのころのエピソードで色々書いている。

例えばよくロスチャイルドなんかは有名な財閥けども
そこで大蔵官僚だった福田さんがですね、

1931年に、その26年前に発行された
英貨公債の2300万ポンドの借り換えの問題の解決に
あたったんですね。

そこで岩波文庫の「回顧九十年」において
ちゃんとその当時のエピソードが福田氏本人によって
書かれていて

まあ一言「殺されるかと思った」と。
当時高橋是清が日露戦争後の財源の問題があって

それで福田元首相のお父さんの大蔵官僚だった
福田赳夫さんはこれ
フランスの財閥のパロン・エワール・ロスチャイルドに

資金の返済について交渉に行ったのですね。

パリのシャンゼリゼとおりの横にロスチャイルドの邸宅があった。

それでここで交渉内容というのが
当時のフランスは激しいインフレでしたから
そこでインフレ考慮せずに借りた時の額面で返済できれば

タダ同然の返済ができたのですね。

だから高橋是清は福田赳夫に
それを交渉させに行った。

逆にインフレのレートを考慮したらその借金額面は
ずいぶんと高いヤバイ金額だった。

そして日本政府が当時実際にロスチャイルドに資金借りていたけど
その証文に問題があって

フランス語と英語表記で不明瞭部分があったんですね。

これだから、当時日本政府がロスチャイルドに金借りる時に
失敗しちゃったわけだけども。

そこで福田赳夫に高橋是清が

「おい、これ借りた時の額面で返済できるように交渉してこい」

ということで命令してそれで福田赳夫はロスチャイルド家
に行くんですね。

それでロスチャイルド邸では、
最初は満面の笑みだった、と。

んが、福田赳夫が高橋是清のメッセージを
伝えて「額面どおり返済します」といったらですね、

ここで日系ビジネス文庫の 私の履歴書 で実際に
彼が書いてますが

そこでロスチャイルドさんがこれ、相当怒り狂って
大声でまくしたてて、

それでその後机の上に機械のようなボタンがあるらしいんですね。

それを押したと。

そしたら四方の壁が自動で開いて

武器をにぎりしめたプロレスラーみたいな男たちが
部屋の中に入ってきて

この福田含む外務官僚たちの後ろに立ったと。

こんな話は普通に書籍なんかで
当時の官僚であった福田が回顧録なんかで書いてるわけですが
そもそも知識がないと

実際のこういう話を知らないから
いまいち後ろで誰が力持ってるか？だとか
そういうのが分からなくなるんでしょう。

ロス茶=陰謀 とかそういうのってのは
そもそもその人の脳みそがそのように考えるように
うまく洗脳されてるんでしょう、きっと。

ちなみに陰謀ってのは Conspiracy theory を
日本語に訳したもののだけど
「権力者共同謀議はある論」ですね、本当は。

本来は JFK が殺された時にその背後の動きを追う人たちを
レッテル張りするために CIA で考案されたのが
Conspiracy theory っていう単語だったんだけど

ここで人々は社会性があるからそこで馬鹿と思われたくないっていう
心理学があるんだけどそれを利用して
Conspiracy theory っていう単語が使われて

日本だと陰謀論とか都市伝説とかそういう言葉に訳されてます。
これもだから本当は人間の社会性をうまく利用した単語で
諜報用語なんだけどそういうのも知らないといとも簡単に

人間は騙されるわけですね。

ただアメリカ人たちは最近上記のようなこと知ってるので
真相追及に動く思考体系が出来てきてるわけです。

それでトランプ大統領はそこと必死に今は戦っている現状
といえそうですが・・・

実は・・・そう、今回はトランプの勝利という見方があって
私は実はそっちの見方のほうが正確だ、という人です。

それで今回の中間選挙について言えば
マスコミ的には「ねじれが発生した、ねじれだねじれだ」
と結構単細胞のように言ってます。

ここでトランプ大統領は共和党が上院は制したけど
下院で議席減らして
少数野党に転じたにも関わらず

「勝利した」

といたので、マスコミは「このトランプは何を言ってるのか？」
と馬鹿にして言ってるわけですね。

ただ実はこれやはりトランプが正しいでしょう。

というのは今回の選挙で
共和党内をまとめていたポールライアン下院議長や
さらにトランプ批判派のジェフ・フレーク上院議員が立候補せず
議員を辞めましたが

さらに共和党内にトランプの敵がいて
それがジョンマケインという軍産系の議員でしたが

彼なんかは8月に死にました。
一方今回の議員で共和党から議員になった人の大半は
トランプ支持者ですね。

実際の話トランプは共和党内の軍産エスタブリッシュメント、
すなわち反トランプのムーニー勢力との戦いに勝って

共和党の支配権を手に入れたと言えますので
実はトランプの勝利宣言は

表だけ見てると分かりませんが彼の本音でしょう。

それで特にアメリカの歴代政権の特徴として

中間選挙で上院下院とも通常は議席を大幅に減らしたのだけど
今回の共和党の敗北具合は非常に小さかったわけですね。

ただマスコミはそれをことさらに強調したがるけど
実際はオバマ元大統領やペロシなんかの民主党上層部への
反感が相当強かったと思われます。

ちなみにもし日本のマスコミが捏造的に報道してるように
トランプが負けたとするならば

要するに民主党が一気に共和党に巻き返してきた
といたいならば

同数を増やさなければいけなかったんですが
今回は上院、下院で上院がマイナス2、下院が30ですから
まったくオバマ政権時の喪失した民主党の議席を増やせていない
わけですね。

だから今回はマスコミ報道なんかでは
民主党が勝った？みたいな謎報道をしていますが

実際のところは民主党は非常に弱かったと言えます。

だから2020年の大統領選挙において
2019年夏くらいまでに民主党は全くもって

政治運動として民主党の波を作り出すことは難しい状態ですから
すなわちトランプは再選の可能性が高いと

考えたわけでしてだから「勝利した」と発言したんですね。

ただ一応日本のマスコミっていうのは
そもそもの話、民主党とかワシントン官僚たちの味方でもありますから

この辺は彼らも分かってるんだけど
なるべく民主党が優位だと印象付けたかったんだらうな～

なんて私は見ていました。

それで副島先生は

米中間選挙の結果を見て。 トランプは、このまま突き進む。

と書いてますが

もちろんこれからの闘争も激しいもので
暗殺危険性もあるわけですが

それで「いよいよトランプもやばいのか？」という
声がありますが

どうもそうではないわけですね。

それで上の副島先生の言論にも
書かれていたのだけど

もう実はトランプのスキャンダルネタは
結構どうでもいいものしかないわけですね。

というのはトランプ支持者ってのは
私ゆうはアメリカ人ではないけど
アメリカの保守層の気持ちは友達にいたから
分かるんだけど

あの金髪ゴリラっぽいトランプ大統領が
とんでもない女たらしでセクハラだったりそれ以上のことを
やってきてるだろう、なんてのも知っていて

まあ非常に悪い男だろうなんてのは当然知ってます。

これは良かったら副島先生の先生である
小室直樹先生の書籍で「日本いまだ近代国家にあらず」
っていう本があるから、

良かったらそれを見てほしいですけど

実際の話 近代デモクラシーってのはトップの
首相なり大統領に清廉潔白を求めたら

官僚たち役人が強くなりすぎる傾向があるので
綺麗過ぎるのはNGと考えられてるわけです。

以前も日本で田中角栄って立派な
国会で議論できる政治家・首相がいたけど

彼はまさに清廉潔白をマスコミや官僚に求められて
スキャンダルで追い落とされて失脚したのですけどもね、

その後の日本の政治の大変さってのは今の2018年に
つながっていて 日本は官僚天国になっておりますね。

アメリカの民衆たちってのは
やはりさすがな部分はあって

この辺で

清廉潔白でなくてもいいから
どんなにずるがしこくて悪い方法でもいいから

私たち民衆の利益になる政治家を

というマキャベリズムの考え方をしますから、
やはりトランプは強かったわけです。

この辺がきっとクレイゴトに包まれている日本人だと
分かりません。

良い政治家は1と2の政治家どちらか？

という質問があつて

1 超がつくほど清廉潔白。そして何も悪いことをしていない。
けど戦略や闘争力が弱く、結局官僚たちの戦いに負ける政治家

2 すさまじく汚く、金に汚く、女にも汚く、
そして全く人格は尊敬できない。
けども圧倒的なずる賢さがあって
そこで官僚たちの利権をぶちこわせる力がある政治家

という質問があったとして
おそらく日本人は1が良い政治家と答える人が多いけど
アメリカ人は2と答える人は多いわけですね。

私は2だと思いますが、これは近代デモクラシーを理解していない人は
1と答えて、
理解してる人間は2と答えます。

(例えば小沢鳩山政権は官僚の特別会計に歯向かって
戦ったけど、負けた。
そういう意味ではマキャベリズム的考え方からしたら
責められる対象です。

民衆利益を守るために民衆側の政治家は悪賢くても
勝たないといけない。)

これは意見の差ではなく
知識の浅さと深さの差になります。

それでなんとかワシントン官僚たち、エスタブリッシュメントたちは
トランプ弾劾のためのネタを探してますが

もうそういうネタが見つからなくなっている。

すなわちトランプのやばい時期は過ぎ去っていると。

だから今回は民主党が大方の市民たちの
見立て通り対して巻き返せなかったので

トランプは実はこれから大変やりやすくなってるんですね。

だから彼は「勝利した」と言ったわけです。

例えてみるとボクシングの試合があって

圧倒的にポイント取られてダウンが3回くらいあって
相手になんとかダウンを1回奪った選手がいたとして
これが民主党の立場です。

彼が大衆に言う。

「勝利したのはダウンを1回取った俺だ！」と。

けども冷静に見ると明らかに相手（トランプ）が勝ってます。

そんな感じが中間選挙でした。

それで2016年の大統領選挙から2018年の中間選挙までが
一番トランプの大変な時期でありましたが

これは主に共和党内にエスタブ側の軍産側の人間が
多く潜んでいたことが原因でしたが

もうそれも解消しました。

（だから、本当はマケインが死んだ背景は・・・
トランプ陣営もしくは背後のキッシンジャーたちの勢力が
「なんかした」かもしれませんね・・・）

それで2018年までの2年間のトランプ政権は
相当 敵が多かったわけですが

これから2018年から2020年までのトランプ政権の
運営はこれ、「敵が相当少ない中での戦い」になるんです。

軍産官僚たちは政府中枢からかなり外れましたし、

トランプの裁量は相当拡大したのが事実です。

なのでアメリカ政治の内政においては
エスタブリッシュメントへの破壊はかなり進んだ
というのが本当の見方でしょう。

ただ日本のマスコミってのはどうしようもないので
(アメリカも)

「トランプが負けてねじれになったけども」
みたいな論を展開してますが

これ事態がだからフェイクニュースなんです。
前提がおかしい。

だからこれから

北朝鮮関係だったりイラン関係だったり
米中貿易戦争だったり・・・

まあ色々あるんですけど
トランプやキッシンジャーの戦略通り

これからもアメリカ⇒中国ロシアなど BRICS への

覇権移動

は間違いなく進む状況になってますね。

だからトランプは「今回は勝利である」
と言ったわけですが

さすがにマスコミとしてはその論点で言えないですから
論点ずらして、トランプが負けたねじれだ、

となんとか主張してるけど
これ事態 やはりフェアな見方ではないですから

大衆扇動のプロパガンダの役割ですね。

だからこれからの流れとして
日本の多くの人にはトランプが負けたと刷り込まれてるだろうけど

よくよく見ると
「あれ？おかしいな？トランプが中間選挙で
負けたって聞いていたのに
この金髪ゴリラみたいな人はさらに元気になってないか？」

という事態は出てきそうですね。

ということで最近の世界情勢の報道は
テレビ新聞、ネットニュースみても
大体歪曲されてますので（それがフェイクニュース）

だまされないで自分で考えることが必要ですね。

それでは！

ゆう

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

新案件！

【利益率 36 倍】 初期費用 0 円でも 1000 万の投資より儲かる生き方とは？

⇒ <http://freeclub.jp/lp/22960/61453/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【音声】

めんどくさがって行動しないあなた自身を

『半自動的に行動させる方法』を話した音声

【音声プレゼント】「めんどくさい」を克服する方法

⇒ http://fxgod.net/onsei/business/mendokusai_control.mp3

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDFレポート【無料FX道場32時限目までの内容をまとめました!】

⇒ http://fxgod.net/pdf/32jigen_matome.pdf

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆